



# 輝く介護

第 34 号

2017 年(平成 29 年)  
3 月 31 日発行

中江

発行: 鎌倉市高齢者いきいき課介護保険担当

TEL. 0467(23)3000(代) FAX. 0467(23)7505

編集: 特定非営利活動法人 かまくら地域介護支援機構

〒247-0061 鎌倉市台 2-8-1 台在宅福祉サービスセンター内

TEL. 0467(46)0788 FAX. 0467(46)0059

http://www.kamashien.com e-mail jimuk@kamashien.com



## 介護予防・日常生活支援総合事業の目指すもの

～元気に その人らしく 地域で暮らしていく～

「広報かまくら」3 月 15 日号で介護予防・日常生活支援総合事業が始まるという記事を掲載しました。今、介護保険制度はどういう方向に変わっていかようとしているのでしょうか。

### 高齢人口の増加に対応するための「地域包括ケアシステム」

鎌倉市の高齢人口(65 歳以上)の割合は、介護保険制度の始まった平成 12 年には 20.7%でしたが、平成 29 年 1 月には 30.5%にまで増加しています。この高齢化という全国的な傾向に対応していく仕組みが「地域包括ケアシステム」です。これまでも「輝く介護」で取り上げてきましたが、「地域包括ケアシステム」とは、地域の福祉・医療・介護そして住民が協力、力を出し合って、健康寿命を延ばす取り組みや、介護や支援が必要になった人にサービスを提供していかようとするものです。そして、この仕組みは、市町村が中心となり、地域の特性に応じて作り上げていく必要があるというわけです。

### 重要度を増す介護予防・生活支援サービス

高齢者や高齢単身世帯の増加に伴い、支援が必要な高齢者の増加が予測されます。高齢者にとって長く健康でいられることが一番で、もし生活支援が必要になっても衰えの進行を遅くできることが望ましいでしょう。また、介護が必要な人が少なくなれば社会的費用も少なくて済みます。そのためには、就労の機会づくり、健康づくり活動、見守り、外出支援、家事支援など様々なサービスの提供が必要になってきます。必要なサービスの量がこれまで以上に多くなることを予測して、国では、これらのサービスを民間企業、社会福祉法人、NPO、ボランティア、地域住民などの幅広い事業主体や人たちがかわりながら、提供する仕組みを作ろうとしています。

### 介護予防・日常生活支援総合事業とは

これらの背景をもとに、現在、要支援に認定されている人や今後支援が必要になりそうな人に対しては、全国一律の介護予防給付ではなく、市町村が、その地域にふさわしいサービスを提供していかようとしているのが「介護予防・日常生活支援事業」(以下「総合事業」といいます。)です。



shutterstock · 174759581

### 鎌倉市の総合事業

鎌倉市では平成 29 年 4 月から総合事業を開始し、順次、充実していく予定です。主なサービスは、訪問型サービス O(訪問型サービス オー)と通所型サービス O(通所型サービス オー)で、要支援に認定された人はこれまでと同じ方法、費用で訪問介護や通所介護のサービスを受けることができます。

また、今後、専門職による短期集中型のプログラムを提供する通所型サービス C(通所型サービス シー)や、緩和した基準による訪問介護を提供する訪問型サービス A(訪問型サービス エー)の実施などを予定しています。

# 鎌倉のこれからの介護は だれに？！

## これからの介護 その一

### 介護人材の充足を図ろう！

鎌倉市の高齢者人口は、国の予測より早めに増加しており、高齢化率は 30%を超えています。これから介護を必要とする高齢者はますます増えていきます。鎌倉市訪問介護事業者連絡会が行った市内の在宅介護のヘルパーによる実態調査では、訪問するヘルパーも同じように高齢化が進む状況が明らかになっています。介護事業者間では話し合いの場を持ち、努力を重ねていただきましたが、働き盛りの人材が不足しがちです。鎌倉育ちの介護職が増え、2025 年までには何とか必要な人材が整うように、介護事業者とともに検討していきたいと思えます。

### なぜ若い介護人材が定着しない？

住民の年齢構造からも若い世代の介護人材の増員は厳しいのが現状です。鎌倉で働く人を増やすために、移り住む人たちが働きやすい環境を整えることも必要なことかもしれません。それには、将来介護を受けるかもしれない市民の皆さんと介護に携わる人たちと、このテーマで話し合う機会を重ねていくことが大切なことでしょう。



### ワールドカフェで 語り合しましょう！

#### “これからの鎌倉の介護について”

去る 3 月 22 日、かまくら地域介護支援機構の主催で、台在宅福祉サービスセンター機能訓練室において、“これからの鎌倉の介護について”と題して、ワールドカフェスタイルの市民と介護に携わる人たちとの意見交換の場が開かれました。

話題提供者として、カフェマスター(講師)に実践ソーシャルワーク塾塾長の菊池健志さん(社会福祉士)を迎えて、お茶を飲みながら、介護事業者側もケアマネジャーや施設職員など、様々な職種の人たちが参加し、市民側も民生委員をはじめ鎌倉市生活支援サポーターさんや近くにお住まいの市民の方々が加わり、楽しく意見交換を行いました。カフェマスターから今日の話し合いのテーマとなる高齢者を取り巻く状況を介護保険制度や介護人材の確保、多くの高齢者が在宅で死を迎えざるを得ないことなどのお話を織り交ぜながらの講話があり、いよいよ話し合いのスタートが切られました。

イ⇒「次の介護を考えよう」ロ⇒「人材不足の解消を考えよう」ハ⇒「我が家で大往生を考えよう」テーブルごとに話し合いのテーマが示され、4、5 人ずつ着座し、自己紹介カードを作り、コミュニケーションを取りながら始まりました。導入が楽しく、たちまち打ち解けてすぐさま意見交換。模造紙のテーブルクロスに、自分の意見を書き残し、次のグループへの話をつなぐ役割のテーブルホストを残し、他のテーマのテーブルに移動します。短い時間ですが、大勢の方との意見交換が可能となり、それぞれのテーブルごとに話し合った内容などの情報を共有して終わりました。

